

オプトアウトの掲示方法について

☒ 当院ホームページ ☐ 部署掲示板

題名：Purkinje 関連心室性不整脈における Septal q 波の欠如：洞調律心電図による Purkinje 系伝導異常の検討

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	Purkinje 関連心室性不整脈における Septal q 波の欠如：洞調律心電図による Purkinje 系伝導異常の検討 (2026-C17)
当院の研究責任者 (所属)	青木 元 (循環器内科)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	東京心臓不整脈病院 循環器内科 野上昭彦
本研究の目的	Purkinje 関連心室性不整脈 (Purkinje-related ventricular arrhythmias : P-VAs) は、Purkinje 線維を起源または回路の一部とする心室頻拍 (VT)、心室細動 (VF) および心室性期外収縮 (VPC) を含む不整脈群であり、近年、Purkinje 系の局所伝導異常や基質異常がこれら不整脈の発生に関与することが報告されています。しかしながら、洞調律時 12 誘導心電図における特徴的所見については十分に検討されていないため、本研究では、Septal q 波の有無に着目し、Purkinje 関連心室性不整脈患者における洞調律心電図所見を解析することにより、Purkinje 系伝導異常を反映する非侵襲的指標の探索を行います。
研究の方法 (利用する試料・情報)	電子カルテおよび保存された 12 誘導心電図を用いてデータ収集を行う。Septal q 波は I、aVL、V5-V6 誘導における 30ms 未満かつ 0.1mV 未満の small q 波と定義し以下のデータを使用します。 収集項目・年齢・性別・基礎心疾患・12 誘導心電図・不整脈診断 (VT/VF/VPC) ・アブレーション所見・アブレーション成功部位 研究実施期間：2026 年 10 月～ 2031 年 12 月
利用する試料・情報の 該当期間	2010 年 1 月～ 2026 年 12 月
試料・情報の他の 研究機関への提供	パスワード付の電子データをセキュリティ機能つき USB メモリにて受け渡し

および提供方法	
個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：青木 元 (所属：循環器内科)
備考	